

寺 報



第180号

発行人

伊 勢 徳

発 行 所

真宗大谷派 称念寺
知立市新地町西新地65

TEL(0566)83-8888

FAX(0566)84-1262

www.shounenji.com

印 刷

有限会社 クシロ印刷

共鳴する仏の願意

三連休の最終日、家族は次女の下宿に泊まりで東京まで出掛けており、私にしては珍しく何も予定の無い休日であった為、前夜に連れと呑んだ身体を^{いたわ}り休め、昼前に起き出して洗濯物を干したあと、洗車にでも行こうかという時、ハッと気がついた。既に七月も二十日過ぎ、寺報『清風』の文章を書かなければお盆号に間に合わない、早速パソコンと『真宗聖典』を鞆に詰め、カプチーノと快適な席を目当てにスタバに繰り出した。

仕事に関しては月曜から金

曜日まで保育園の運営に専従しており、週末のみ衣を着て法事など勤めることと言わずもがな、私は役職なしのパートタイム僧侶である。毎朝のおあさじも日曜のみ出仕し、あとの事は全て住職と坊守にお任せしている。園舎の建替えに係る膨大な事務は^{むす}凡そ完了したとは云え、建物が代わ

り避難訓練や薬品類の取り扱いも慎重な改訂が必須で、他にも園庭遊具やままごと等の各種用品、絵本や植樹に至るまで環境整備は未だ道半ば、加えて認定ことも園化に際し園名も変更したので、複雑に繋がり合う各種口座の名義変更など優先すべき仕事を多数抱えたまま、^な尚も二百名が生活する施設内では連日様々な事案が発生するので、目まぐるしく日ごと過ぎゆく中、お盆も新聞も失念していたのだ。

かの生活意識では、教えを聞きつ人生を歩むという、連綿と伝承されてきた真宗門徒の生活の、根源たる仏法聴聞すら昨今は忙しいからと後回しになり、せいぜい月に一度が関の山だ。実際問題、スー

8月10日(日) 午前8時・10時

お盆法要

法話 高柳正裕師

(回光舎主筆)



『運動会パラバルーン』徳風つき組 米嶋直人

パーに買い物に行けば三日後の夕食まで予定を組む為、疲労から妻と相談し今日はもう外食にしようかというだけで、食材が余り傷むこともあり、気まぐれで聞法しに行こうとか、また宿を予約し師の法話を遠方まで聴きに向くことも少なくなつた。これが私の偽らざる縁の現実で、だからこそ、親鸞以来「在家仏教」としての真宗の、その普遍性に改めて合点させられる。

どの様な生活や悪行を重ねる俗人も、誰もが弥陀の本願

に漏れることのないよう、教えを聞き「南無阿弥陀仏」と称えてほしいと願われる浄土門の教えは、自力で修行し悟りの境地を目指す聖道門仏教に対し、もつとも真摯に修練を積み重ねても、日々の座禅や瞑想に命を掛ける禅僧だろうが千日回峰行を成した天台の阿闍梨であろうが、或いはタイの修行僧のように二百も三百もある戒律を守り続けても所詮、煩惱を完全に無くすなど到底不可能であるという、いち門徒としての確固たる人間観があるため、大乘仏教はそも他力しか通用し得ない、仏教史に於ける先達同様に私も思うことである。

ところで仏教は、英語で「Buddhism」と翻訳される。キリスト教は「Christianity」、イスラム教は単に「Islam」、対してブディズムと、賛否はあるが個人的に妙訳だと感じてきた。「イズム」とは主義を意味し、例えば民主主義や菜食主義をして、特定の理念に基づく思想や立場を指し、

「仏陀イズム」とはつまり仏陀である釈迦の言葉を、人生を生きる基本的な指針とする、その教えや生き方のことである。興味深いことに釈尊の教義の根幹は「真理」であるため、智慧や信仰の有無に関わらず、たとえ他宗教、はたまた無宗教の人であつても、教えとしての「諸行無常」や「生老病死」の人生を人類皆一様に甘受している。だからこそ米国には、キリスト教徒であるまま仏の教えを真面目に学ぶ人が大勢おられ、葬儀で拝読する『白骨の御文』英語版も「我やさき人やさき、今日とも知らず明日とも知らず」と聞けば生命の道理だと感銘を受け、そのコピーを頻繁に求められた。

三河は浄土真宗の土壌だが、たまさか代々の家の宗教だからと法事に参詣するだけで、儀式をして先祖のおかげが教えられるし、日常忘れているが自分も含めて人は必ず死ぬのだから、誰が先に死ぬかわからないものだとして自然



『運動会パラバルーン』徳風ほし組 古山依都

に教義が体解^{たいげ}させられる。また故人の死に際は、誰しも思い通りにならない人生のそれぞれ縁に依るので多種多様で、折角長生きしたのに寝たきりでもう早く死にたいと親が愚痴ながら死を迎えれば「人は何のために生きるのか」と問うてみたり、また癌や心筋梗塞で掛け替えのない家族が予期せず若く急逝すれば「私の来年や再来年も無いのかも知れないな」と、自らを見つめ直しスマホ依存まで問われるものだ。私流に言えば

この「なんとなく仏教徒」の感覚が重要なのである。

日本人一般としても、近況を尋ねる他人の気遣いに多くの人が「おかげさまで」と応え、食事の際には「いただきませう」と静かに両手を合わせます。この合掌は仏教の行（行為）であるため無宗教の人の所作ではないし、あるいは感謝の気持ちを表す「ありがとう」という日常の言葉も有ることが難しい、今こそ有り難いという事を当たり前にしてはならないとの仏教的な心得である。その証左に、かような考え方や概念そのものが歴史になかった英語には、「させていただく」同様、これら日本語の翻訳語は存在しない。かくの如き日本固有の習慣や言語だけで「今ある私は、決して自身の能力や努力の結果だけでなく、自然の恵みと他の生命の犠牲を含め、色々な人や事象をして成り立っている」と、釈迦の悟りの核心である「縁起」の道理が、遍く精神に通底する。

仏典マンガ

絵：小川ゆきえ

仏さまのおしえ

出典は『パンチャントラ』 インドの説話集、世界最古の物語集です。



毎朝7時から朝の勤行「おあさじ」が、毎週日曜日には輪読などございます。

逆に仏陀イズムの対義語は何かと考察すると、自らの力や選択の外側である「縁」を認めないのだから「利己主義」乃至は「自分中心主義」、即ちエゴイズムであろう。世間に蔓延る宗教には、除霊や祈祷を含むインチキやカルトも数多く、また宗教で方向を誤ると独善や盲信、排他の危うさもあるが、「自我の物差し」を絶対化して恰も無宗教こそが現代科学文明の正義であるかの論調は非常に危うい。諸問題をして「〇〇ファースト」などと端的に自己の立場を正当化することは、歴史上繰り返された差別や戦争の温床であった。親鸞に尋ねれば「非僧非俗」、出家して善行に励む僧侶でもなければ、さりとて欲望を全肯定し身勝手な俗な生き方に安住できるのでない。私自身、生活の只中で、聞いた教えを手掛かりとして、日々自分の生き方に迷い奮闘している真宗門徒の一人なのだ。

「文章 若院」

若院の伝道揭示板

・ 苦悩の根本は
自分の都合への
執着にある

・ 私はわたし
あなたはあなた
敬うところ

・ お盆には
亡き人に合掌し
自身を観る

■講師紹介

高柳 正裕 師
愛知県に生まれ金沢大学文学部を卒業後、タクシー会社、鉄工所、住み込み新聞配達員などを経て浄土真宗を学びはじめ、本山・東本願寺の教学研究所に23年間勤める。元同朋大学非常勤講師。学仏道場「回光舎」を主宰し、時代社会を見つめつつ、真剣に道を求める有縁の人々と語り合い共に歩んでいる。

■娑婆の縁尽きて

小島 篤仁 77 名古屋 5・21
坂野 誠 69 中山町 6・7
加藤 良代 99 東栄 16
成瀬 せつ 92 千葉県 7・22

■祠堂 永代経のご志納

坂野 光 様 中山町
平野 善弘 様 みよし市

■お盆の前に

自宅のお内仏(仏壇)に夏の打敷を掛けましょう。あれば「切子灯籠」を吊り下げます。お内仏の仏具はおみがきし、お墓の清掃もいたしましょう。仏華の材料は「槿」の芯と「ほおずき」が良いでしょう。



■本堂おみがき

8月2日(土)午前9時から本堂にて「仏具のおみがき」をいたします。お手伝いいただける方は参加ください。



■墓地「一向浄苑」申し経

例年どおり、8月13日(水)及び14日(木)の2日間は、墓地での読経がございます。両日ともに朝7時～9時、夕方6時～8時まで、墓地正面にて当日受付いたします(小雨決行)。

■秋彼岸法要

日時 9月21日(日)
午前8時・10時
法話 佐野明弘 師

■報恩講

◆11月21日(金)
午後6時

法話 北島栄誠 師(新潟県)
◆11月22日(土)
午前8時・10時

法話 北島栄誠 師
◆11月23日(日)
午前8時・10時

法話 大城史雄 師(福岡県)



お盆の法要は、亡き人の死を縁として、共に教えを聴聞しに参りましょう。